

東大研修

私はこの研修において様々なことを学び、自分の将来について改めて深く考えることができたと思う。その中でも特に三つの体験が特に印象に残っている。

ディレクトフォースでは、笹川平和財団の方々からお話を伺った。この財団は世界平和と安全の実現を目指し活動している。そのためにも、21世紀の人間社会さまざまな問題や、自然・環境の課題の解決に貢献するための事業を実施・支援しているそうだ。

はじめに理事長である田中さんからお話を頂き、その後、グループごとにわかれて笹川平和財団で活動するの方々からお話を頂いた。はじめにお話を伺った方は、「海外へ行くと人生に絶望しなくなる」とおっしゃっていた。その言葉から、日本と外国では暮らしにも大きな差があることを実感した。外国には苦しんでいる人も多くいるのに対して、自分たちがどんなに幸せで恵まれているのかを改めて考えることができた。その後、お話を通して改めて学んだことは大きくわけて二つある。まず一つは、リーダーシップとはどのようなものであるのかということについてである。よく日本人は、外国の人に比べて空気ばかりをよみ自分の意見を主張しないとと言われる。そのため、日本人が海外でリーダーとして人をまとめる立場になったとき、まず自分の意見をはっきりと述べ、そのうえでさまざまな意見を調節する力が必要であると学び、自分の意見をしっかりもち発信することは今の高校生に求められている大切なことだと感じた。しかし、ただ意見を主張し続けるだけではいけない。自分の考えを述べる上でも、まず相手の考えを理解し、尊重することが大切であるそうだ。これらのことは、海外で働くときのみならず、普段の生活など日本で暮らすうえでも大切なことであると思った。だからこそ、普段の高校生活から意識していきたいと思う。

二つ目に学んだことは、夢を叶えるためには、目の前のことに一生懸命取り組み、思い続けていることがとても大切であるということだ。お話の中でこの財団に入った理由として、「世界を変えたいと思っても1人でできることは少ないが、この財団に入り、国や政府に働きかけることで少しでも変えられることがあるかもしれない、誰かが行動しないと何も変わらない」とおっしゃっていた。私は、その責任感やひたむきな姿にとっても驚いた。その方が、さまざまな理由により多くの職に就いてこられた方であり、どの職においても自分が成し遂げたいと思うことを追い求めてきた方だからこそ、とても説得力があった。やはり自分の目標を決め、そして努力を重ね追い求めることが何より大切なのだと感じた。今回お話を頂いた笹川平和財団の方々には、質問にも丁寧にこたえて下さり、私たち高校生のために様々

なことを語ってくださった。そして限られた時間のなかではあったが、非常に有意義な時間を過ごすことができた。現在はグローバル化が進み、将来どんな進路に進むにしても海外も含め視野を広くもつことがとても大切であるため、この体験はとても学ぶことが多く、改めて自分の将来について考えるきっかけとなった。

その後の企業大学訪問では、東京大学分子細胞生物学研究所小林研究室を訪問した。私はまだ将来就きたい職業が決まっていない。しかし、特に生物学が好きで、研究者にもとても興味があったためこの研究室を訪問した。ここではゲノムの再生のメカニズムとその破綻が引き起こす細胞老化、がん化の機構についての研究をしている。はじめ、班員の1人が教授に対してこのような質問をした。「人間の寿命をこれ以上のばすことが必要だと思われるのですか。」と。すると、教授からはこのようなこたえが返ってきた。「私は不老不死が必要とは思っていない。人間の寿命はやたら変えてはいけない。どのようにしたら病院にかからなければいけない時間を短くすることができ、長く人生をエンジョイできるのか。それを研究している。」と。教授の研究の中でも、マウスなどで実験をした結果、寿命がのびるように手を加えたマウスは決して幸せに暮らせたわけではないそうだ。教授の世の中の幸せのためのこの研究は素晴らしいと思った。そして、教授の実験では酵母菌を頻繁に使う。私は、実験というとマウスなどを使うイメージがあったので少し驚いた。パンや酒にも使われる酵母菌を使用する理由は、寿命が短いからだとおっしゃっていた。寿命についての研究だと、倫理的にもなかなか人間で試すことは不可能であるから、実験も大変なのだったと思った。そして、様々な最新の機械も見せて頂いた。どれも高機能で興味深いものばかりだった。質問は尽きることがなかった。誰もまだ知らないことを自分の手で調べ発見するという研究者の職業は、とても面白そうだったと思った。私はこの研究室を訪問して、ものすごく研究者という職業に惹かれた。

夜に行われた懇談会では、東京大学など難関大学の二高のOB・OGの方々と交流を深め、たくさんのお話を聞くことができた。どの先輩も私たち高校生が聞きたいと思っていることに対して的確にこたえてくださった。ある先輩の話で、東大に入るメリットは「東大にいる、ものすごい人とコミュニケーションをとれることや共に学べることだ」とおっしゃっていた。私は、自分にも近いものがあると思う。東大には到底及ばないが、私も仙台二高という志の高い人間が多く集まる学校にいる。だからこそ、この高校にいるということは自分にはないものを取り入れ、新しい経験ができるのだと改めて感じた。また、その先輩がおっしゃっていた「学歴は関係ない、一番大切なことは自分がどういう人間になりたいか」という言葉がとても印象に残っている。この先輩は現在、東大を卒業し働いているそうだが、驚くこと

に学歴が今の仕事では邪魔だとおっしゃっていた。お話を聞いて、大学も決して偏差値などだけを気にするのではなく、自分がどんな仕事に就き、どんな人間になりたいのかをよく考える事が大切なのだと強く感じた。他にも、勉強方法なども細かく教えて頂いた。また、勉強だけでなく今の高校生という時期だからこそできることもたくさんあるということを教えて頂いた。今の時期だからこそ、同じ志をもち共にこのことができるきかいなどめったにないため頑張ってくれる人がいるのであって、社会人になってからはなかなかそのような人はいない、とおっしゃっていた。勉強だけではなく、部活など様々なことや自分の興味のあることに積極的にチャレンジするなど、高校生の今だからこそできることも大切に、充実した高校生活にしたいと思った。そして、最後に高校生へのメッセージとしてある先輩がおっしゃっていた「自分のほしいものは自分で取りに行かなければならない」という言葉が印象に残っている。やはり、なにごとにおいても受け身の姿勢ではいけないということをその言葉から強く感じた。この会が終わってからたくさん質問し、お話しさせて頂いたが、このような難関大学に通う先輩のお話を聞くことのできる機会などめったにないため、とても良い経験になった。

私はこの二日間はとても貴重な経験となった。私は将来について全く決まっていなかったが、この二日間を通して自分の将来が少し見えてきた気がする。ずっと抱いている夢を実現させることができるのはほんの一握りかもしれない。しかし、夢をもち一生懸命追いかけてみたいと思った。このような機会を用意してくださった、笹川平和財団の皆さん、東大の研究所の皆さん、二高OB・OGの皆さん、そして先生方に感謝したい。そして、将来に向けて自分の高校生活を少しでも良いものにするためにも、勉学に励み、様々なことにチャレンジしていきたいと思う。